
第1回十勝川中流部川づくりWS

説明資料

平成22年10月2日

北海道開発局 帯広開発建設部

河川法改正の流れ

明治29年
(1896年)
近代河川制度
の誕生

昭和20年
(1945年)
終戦

昭和39年
(1964年)
治水・利水の体系的な
制度の整備

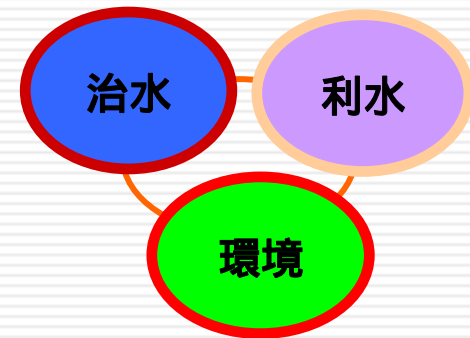
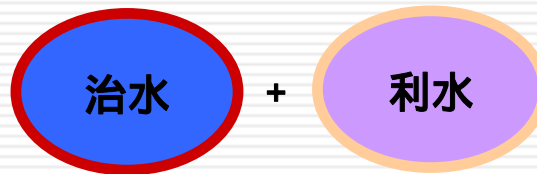
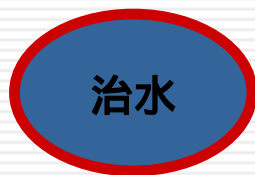
平成9年
(1997年)
治水・利水・環境の総合
的な河川制度の整備



水系一貫管理制度の導入
利水関係規定の整備

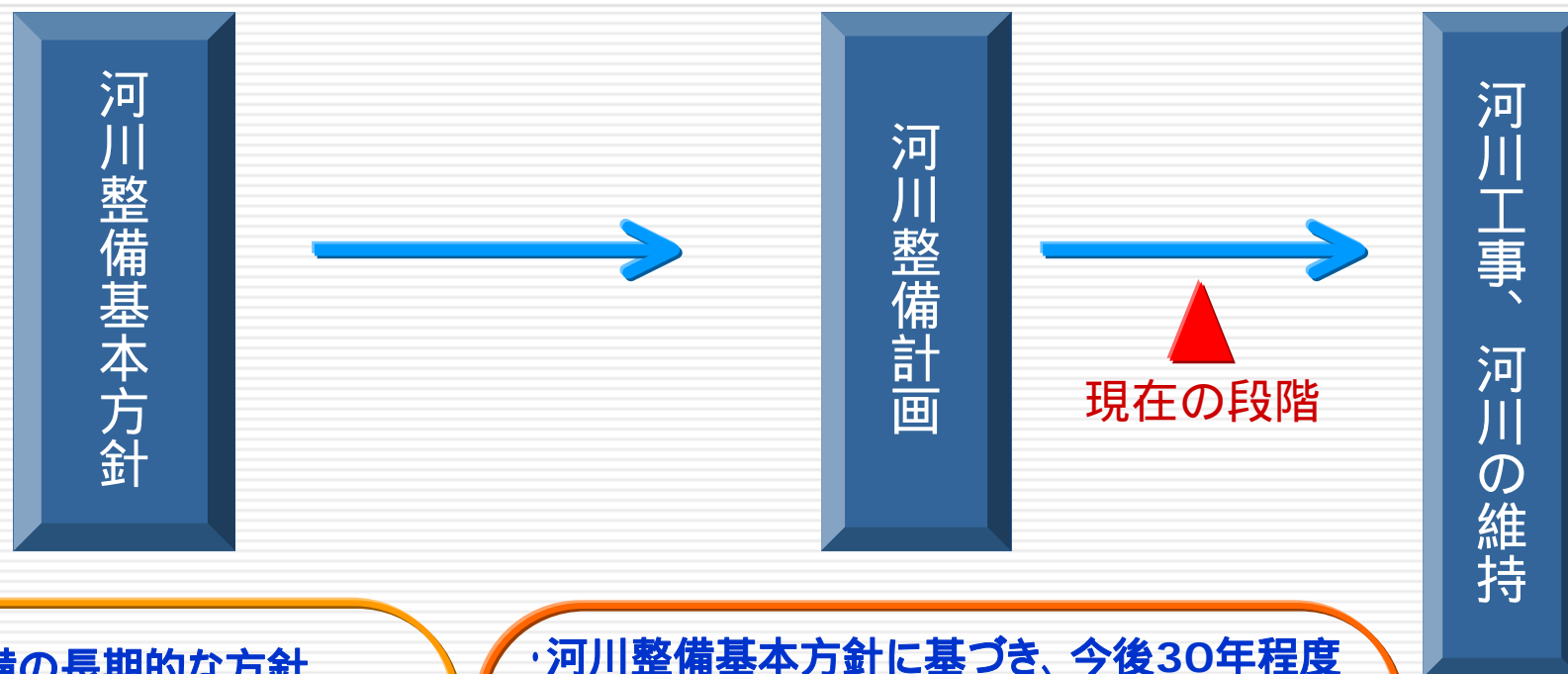


河川環境の整備と保全
河川整備基本方針、河川整
備計画に基づく河川整備
地域の意見を反映した河川
整備の計画制度の導入



河川整備基本方針と河川整備計画

3

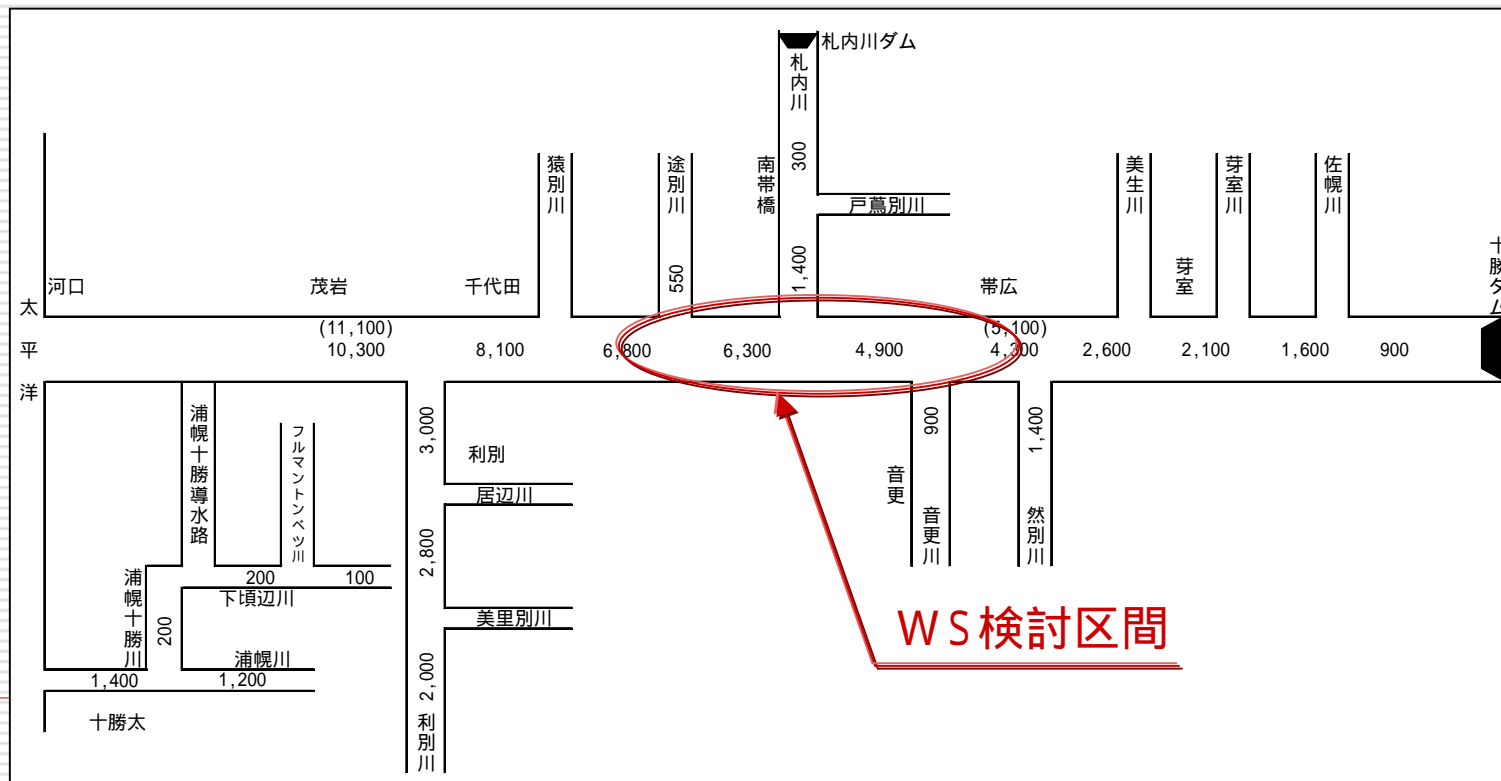


- ・河川整備の長期的な方針
- ・社会資本整備審議会の意見を聞き定める
- ・十勝川水系河川整備基本方針は平成19年3月策定
- ・十勝川の長期的な整備に係る計画規模は1/150
- ・帯広地点計画高水流量は6,100m³/s

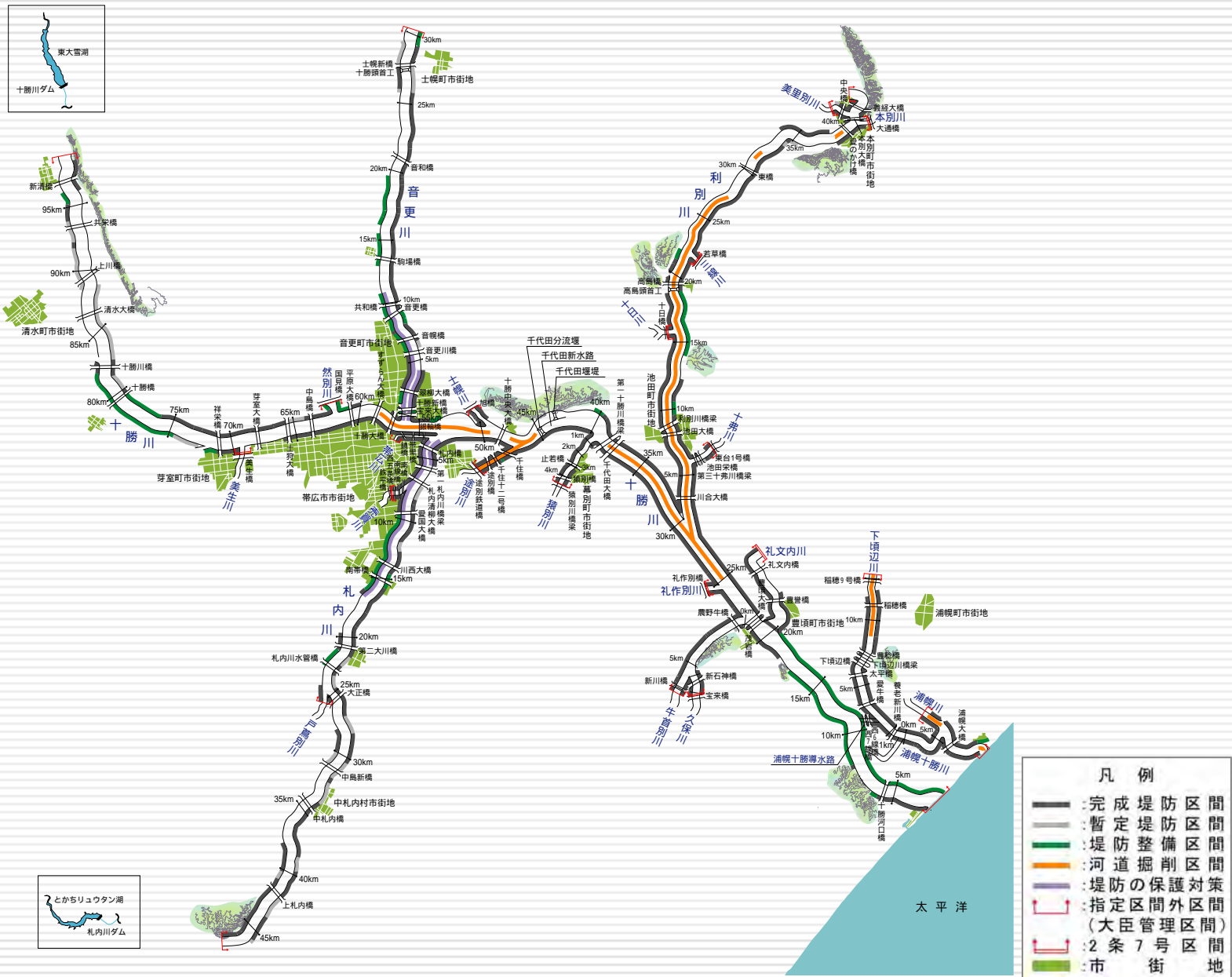
- ・河川整備基本方針に基づき、今後30年程度の河川整備の目標と具体的な整備内容
- ・学識経験者(十勝川流域委員会)、関係住民、北海道知事の意見を聞き定める
- ・十勝川水系河川整備計画は平成22年9月策定
- ・十勝川の河川整備計画目標流量は戦後最大規模の流量
- ・帯広地点河道への配分流量は4,300m³/s

河川整備計画の目標

- ◆ 洪水による災害の発生防止又は軽減に関しては、河川整備基本方針で定めた目標に向けて段階的に整備を進めることとし、十勝川流域において甚大な被害をもたらした戦後最大規模の洪水である昭和37年8月降雨（帯広地点より下流域）、昭和56年8月降雨（帯広地点より上流域）により発生する洪水流量を安全に流下させることを目標とする。
- ◆ 十勝川の帯広地点における目標流量は $5,100\text{m}^3/\text{s}$ とし、十勝ダムにより $800\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道への配分流量を $4,300\text{m}^3/\text{s}$ とする。茂岩地点における目標流量は $11,100\text{m}^3/\text{s}$ とし、十勝ダム及び札内川ダムにより $800\text{m}^3/\text{s}$ を調節して、河道への配分流量を $10,300\text{m}^3/\text{s}$ とする。
- ◆ 河道断面が不足している区間については、河道の安定、社会的影響や河川環境等に配慮しながら、堤防の整備や河道の掘削により必要な河道断面を確保して洪水被害の軽減を図る。



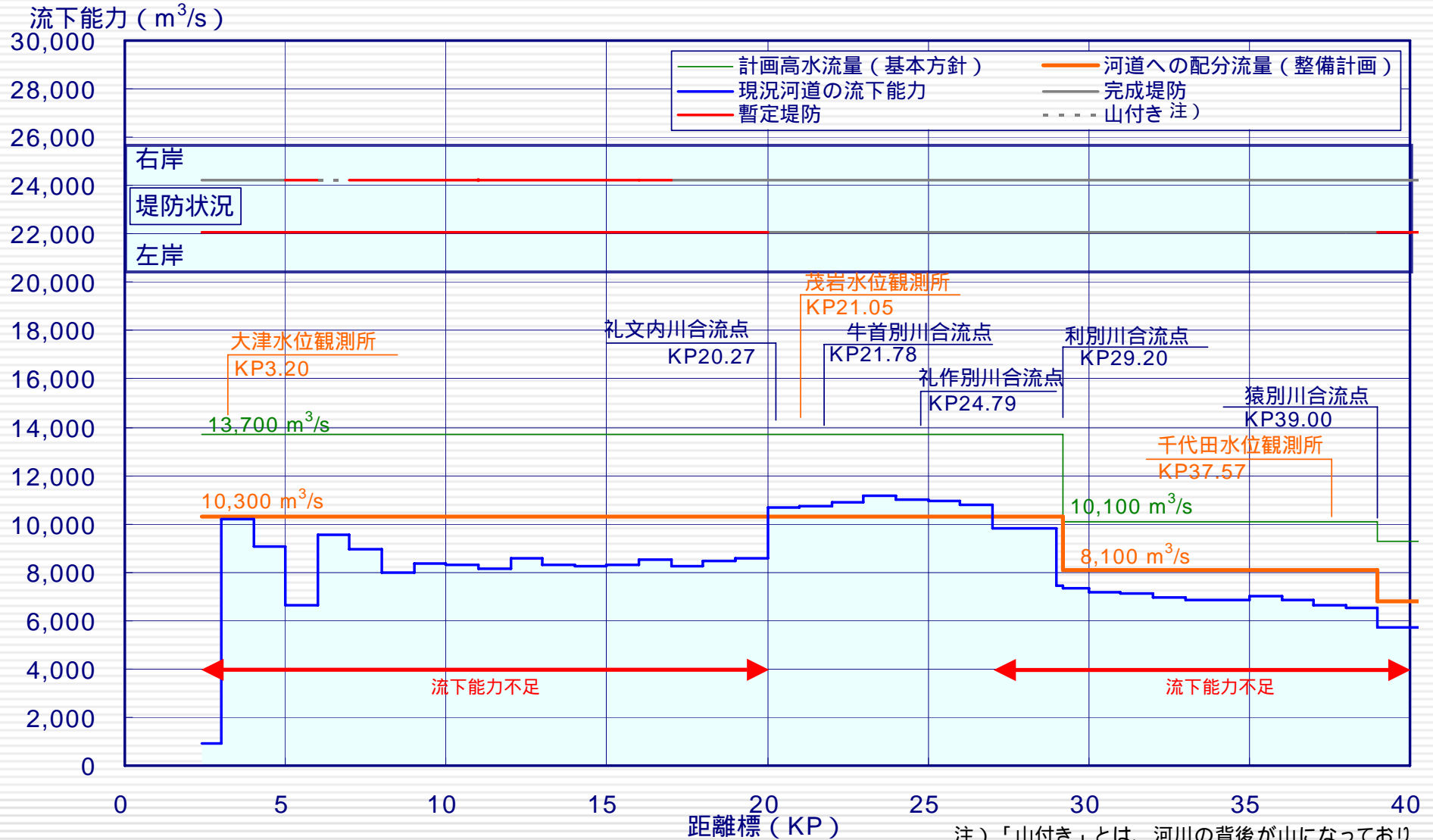
河川整備計画の概要



現況の流下能力

～十勝川下流～

- ◆ 河道への配分流量（整備計画）に対して、流下能力上、安全に流下させるための河道断面が不足している。



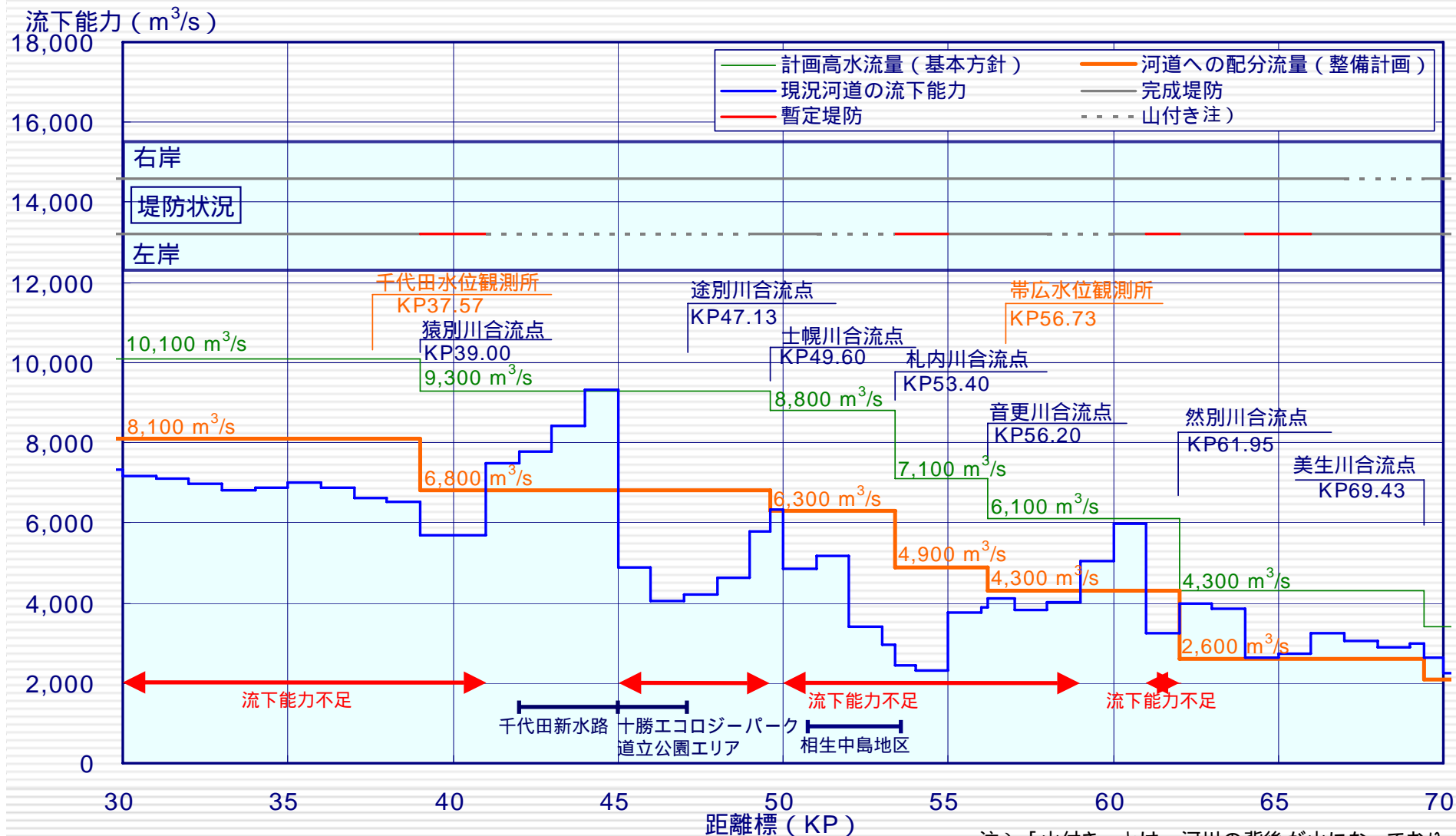
十勝川下流部 流下能力図

注) 「山付き」とは、河川の背後が山になっており堤防整備の必要ない区間

目標流量と現況流下能力

～十勝川中流～

河道への配分流量（整備計画）に対して、流下能力上、安全に流下させるための河道断面が不足している。



十勝川中流部 流下能力図

注) 「山付き」とは、河川の背後が山になっており堤防整備の必要ない区間

十勝川中流部の現況

十勝大橋～鈴蘭大橋

KP57.0～58.6

平成17年度空撮



十勝大橋～鈴蘭大橋：現況

鈴蘭大橋から下流側を撮影(H22.6月)



左岸にはケショウヤナギを含む疎な河畔林が形成されており、ワンド状水域も形成されている。また、高水敷にはパークゴルフ場が整備されている。



右岸にはケショウヤナギを含む疎な河畔林が形成されており、高水敷にはパークゴルフ場が整備されている。



河道中央部には中洲が形成され、中洲にはヤナギ類が生育し始めている。



撮影ポイント&撮影方向

相生中島 ~ 十勝大橋

KP53.0 ~ 57.0

帯広市街地

平成17年度空撮



相生中島～十勝大橋：現況

十勝大橋から下流側を撮影(H22.6月)



左岸にはケショウヤナギを含む河畔林が形成されている。



右岸にはケショウヤナギを含む河畔林が形成されており、高水敷には園地が整備されている。



河道中央部には広い中洲が形成されている。



撮影ポイント&撮影方向

十勝中央大橋～相生中島

KP48.2～53.0

平成17年度空撮



十勝中央大橋～相生中島：現況

十勝中央大橋から上流側を撮影(H22.6月)



千代田新水路～十勝中央大橋

KP45.4～48.2

平成17年度空撮



千代田新水路～十勝中央大橋：現況

十勝中央大橋から下流側を撮影(H22.6月)



左岸十勝川温泉街と河道の間にヤナギ類の河畔林が形成されており、河道中央部には中洲が形成されている。中洲にはヤナギ類が生育し始めている。



右岸と右岸側に形成された中洲はヤナギ林となっている。
また、メン川流入部付近の水域は冬期間のタンチョウの餌場として利用されている。

多様な河川環境と野生生物が生息する河川



十勝川の河原(46.2KP周辺)



十勝川の中洲(54.8KP周辺)



中洲を流れる小水路(48.5KP)



小水路に生育する湿生植物
(56.6KP周辺)



河原のケショウヤナギ幼木群
(53.1KP周辺)



ショウドウツバメのコロニー
(50.3KP周辺)

サケが遡上・産卵する河川



中州下流側の瀬淵(46.1KP周辺)



礫径3～7cm程度の浮石(46.1KP周辺)



H14年に産卵行動が見られた地(48.5KP)



水草が繁茂する小水路(48.0KP周辺)

市民が利用する河川



十勝ネイチャーセンター等
によるゴムボート下り



毎年恒例のイカダ下り



各所で見られる釣り人



野鳥観察などの自然観察

その他、着目に値する自然要素



相生中島地区 (KP5/51付近) 左岸で見られる貝化石床

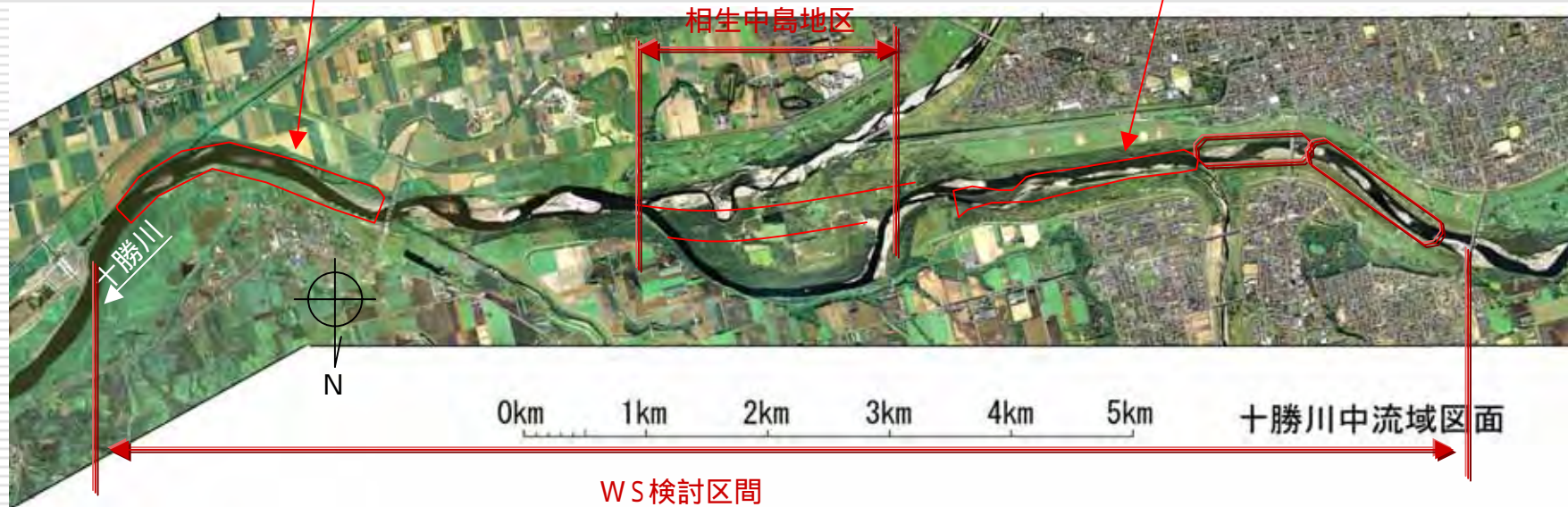
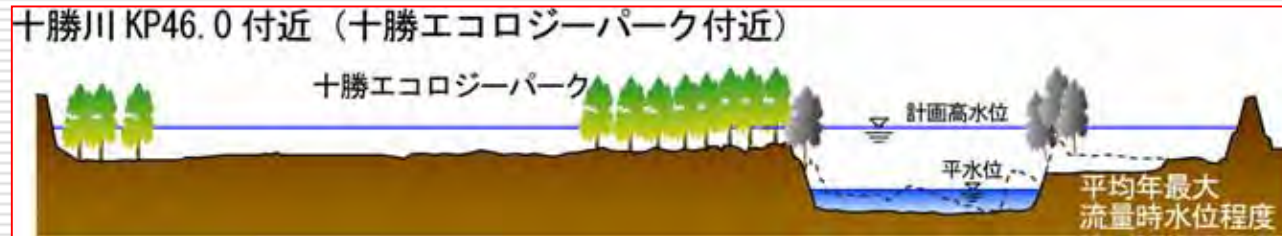


厳冬期に十勝川で採餌するタンチョウ
(KP6/47付近)



砂礫の中洲で営巣するイカルチドリ

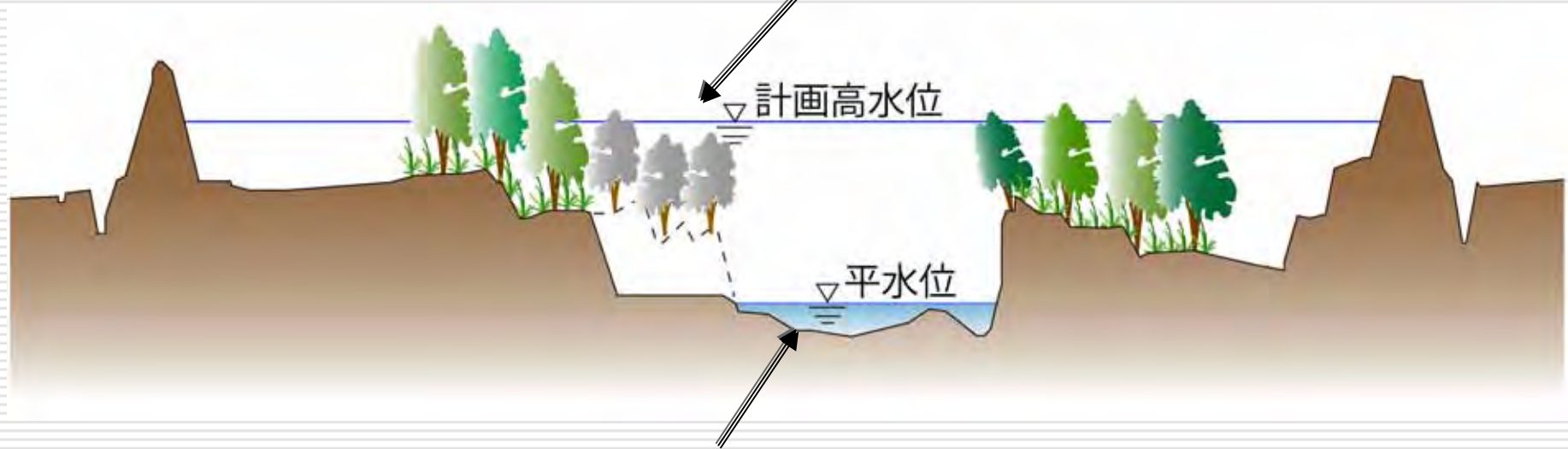
整備計画の掘削イメージ



横断面内の掘削箇所を選択

平水位程度の高さで河岸を掘削

河岸の樹木は失われるが、
冠水頻度の高い草地環境が新たに創出される。

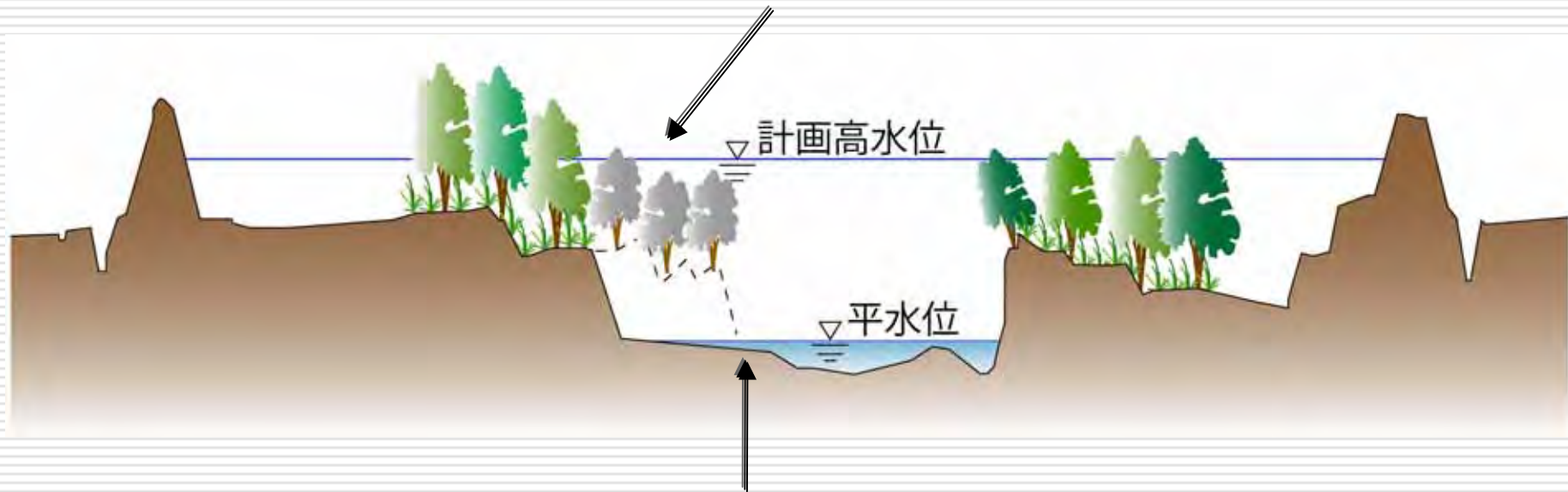


河床の環境が保全されるので、水中の生物への影響が少ない

横断面内の掘削箇所を選択

平水位以下の高さで河岸を掘削

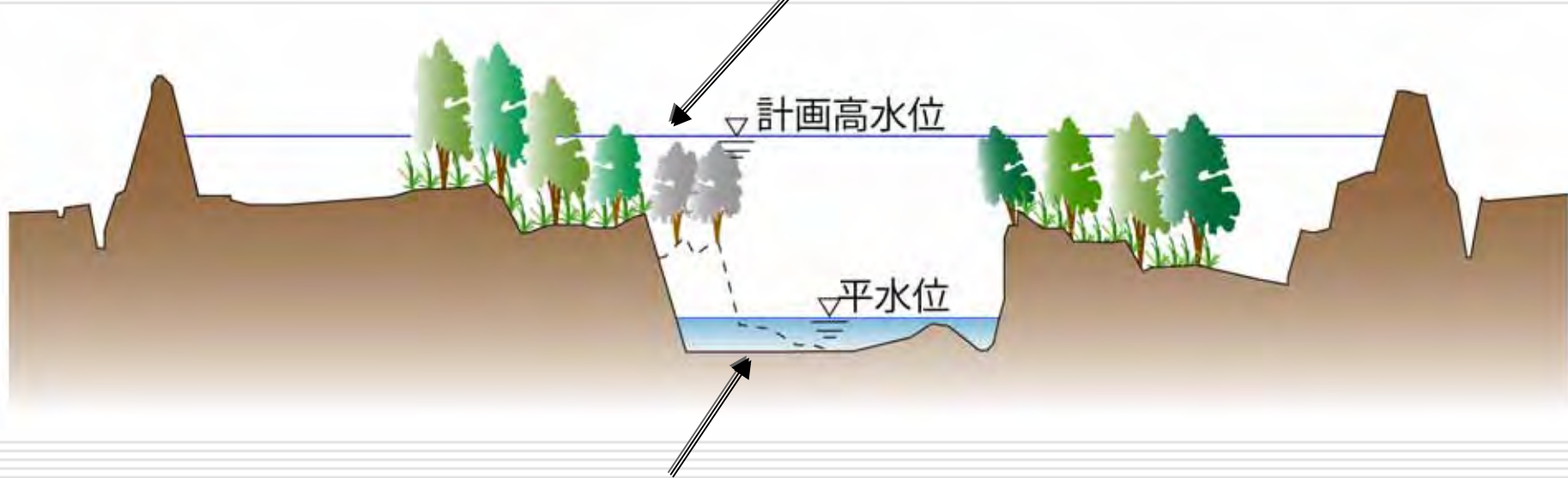
河岸の樹木は失われるが、
水際に湿地的環境(浅場)が新たに創出される。



河床の環境が保全されるので、水中の生物への影響が少ない。

横断面内の掘削箇所を選択 河床を掘削

必要な掘削幅が小さくて済むため、樹木の伐採量は案に比べて少なくなる。



河床を掘削することにより、中州や河床の微妙な凹凸が失われるため、一時的に水中の環境が単調になる。

その他

- 河畔林の伐採と保全
- 留意すべき自然環境からの川づくり
- 環境学習など利用しやすい川づくり
- 観光の面からの魅力有る川づくり

など

相生中島地区WSでとりまとめられた川づくり案

基本方針

- ・洪水時に安全に水が流れる形状とします。
- ・岸边部、水路部の河畔林は、洪水時の流れに支障のない範囲で現況の樹林帯を残します。
- ・水路部については、自然環境や洪水対策に配慮しながら池や散策路を整備して、人が自然にふれあえる場所にします。
- ・岸边部の道路整備については、できるだけ自然に手を加えないように行います



平成17年度とりまとめ

今後のWSのスケジュール(予定)

- 第2回WS 10月下旬 意見交換
 - 第3回WS 11月下旬 意見交換
 - 第4回WS 12月中旬 意見交換
 - 第5回WS 2月上旬 意見交換
- 整備イメージのとりまとめ
翌年度に向けて
-